

あだたら

A d a t a r a

Photo 春の風情

二本松青年海外協力隊訓練所 JICA二本松ニュースレター

2008年春号(誌)
—季刊年4回発行—

特集 TICAD(アフリカ開発会議)ってなに? ...0

新シリーズ 福島県 OB OG 体験記 ...0

シリーズ連載 せかいのくから「チュニジア」...0

福島市長(瀬戸孝則氏)あいさつ...0

JICAデスク— 徒然なるままに... ...0
野口英世アフリカ賞受賞者記念講演会

福島県出身の青年海外協力隊 候補者 2名 ...0

こちら訓練所 **ナース**です! ...0

**平成20年度「草地畜産開発」
課題別技術研修コース 研修員来日!**

平成20年4月14日、ケニア、マラウイほか3カ国から
JICA「草地畜産開発コース」に参加する5名の研修員が
二本松訓練所を訪れました。後日1名が加わり今年8月
14日までの122日間、県内西郷村の家畜改良センターを
中心に、全国各地で専門技術を深めます。

TICAD (アフリカ開発会議)

ってなに??



5月28日から30日まで、《TICAD》が横浜で開催されます。今回で第4回目となりますが、「…今まで聞いたことない。」といった方も多いのでは? 『元氣なアフリカを目指して(Towards a Vibrant Africa)』とメッセージを掲げた今回の《TICAD IV》、遠いようで実は近いアフリカ。現在の日本とアフリカは、どのような関係を築いているのかご紹介します。

TICADとは?...

「アフリカ開発会議」のことで、Tokyo International Conference on African Developmentの略です。

初めてTICAD Iが東京で開催されたのは1993年、当時は東西冷戦が終結した旧ソ連が注目されアフリカに対する国際社会の関心が薄れつつあった時代でした。そのTICAD Iにはアフリカ48カ国を含む79カ国、国際機関など26機関が参加し、アフリカ開発の重要性を国際社会にアピールしました。その結果、アフリカへの関心と呼び戻すきっかけを創出することができました。以後TICADは、5年に1度開催され、今回で第4回目となる現在では日本政府、国連、国連開発計画 (UNDP)、世界銀行など共催団体のほか、アフリカ全53カ国をはじめ、アジア諸国、援助国、国際機関や市民団体など、その関係者は多方面にわたります。

TICADは単なる国際会議ではなく、アジアとアフリカがアフリカの開発促進を目指して協力するための国際的枠組みとしての役割を担っているのです。

TICADの目的とその歩み...

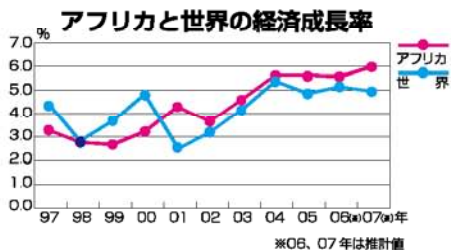
多くのアフリカ諸国が独立をした60年代、当時の国民所得は高く、比較的豊かでした。しかし70年代に入ってから、紛争や環境破壊・温暖化などにより様々な問題が生じた結果、現在では開発が進む東南アジア諸国との経済格差は大きく広がってきてしまいました。

この問題に対して日本はアフリカ支援の必要性をTICAD I (1993年)で、世界に訴えました。

第2回となるTICAD II (1998年)では社会開発(教育、保健、人口、貧困層支援等)、経済開発(民間セクター、工業、農業開発等)、開発の基盤(良い統治、紛争予防と紛争後の開発)を3つの柱とする「東京行動計

画」を採択しました。その5年後のTICAD III (2003年)では、今後の将来像と重点的なアプローチを示した「TICAD10周年宣言」を採択、それは「平和の定着」「人間中心の開発」「経済成長を通じた貧困削減」を三本柱に、「人間の安全保障」「南南問題」の重要性を確認したものでした。

そして今年 (2008年) 5月、TICAD IVが横浜で開催されます。



アフリカの潜在力

国の数: 53ヶ国 (国連加盟国の約3割)
人口: 約9億人 (世界の約14%)
GDP: 7,910億ドル
(世界の1.9% (2004年))



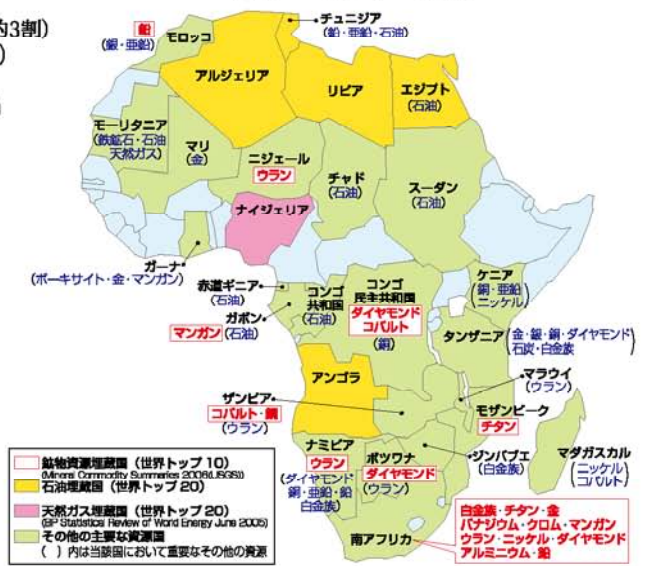
※ ボーキサイト…アルミニウムの原料
マンガン………乾電池の陽極
ウラン………原子力発電の核燃料

TICAD IVでは...

最近では高い経済成長率を遂げる国や民主化が進んできた国が見られるようになったアフリカ、事実、石油やダイヤモンド、レアメタル(プラチナ、コバルト等)など豊富な資源にも恵まれています。このように政治・経済両面での前向きな変化を後押しして、今後のアフリカ開発への取り組みを打ち出します。

具体的には、1) 成長の加速化 2) 平和の定着と民主化、ミレニアム開発目標(MDGs)達成を含む「人間の安全保障の確立」 3) 環境問題・気候変動問題への対処を重点項目に、国際社会の知識・ノウハウ及び資金を結集するよう努めます。

《資源・エネルギーの宝庫》



《実は福島県とも関係あり!》

TICAD IVではG8 北海道洞爺湖サミットやアフリカ関連イベントと有機的に連携をしています。

5月30日に会津大学(会津若松市)で開催される「野口英世アフリカ賞受賞者記念講演会(5ページ「JICAデスク」参照)」も今回のTICAD IVの一環です。

TICADの基本原則はアフリカ諸国の「自助努力(オーナーシップ)と国際社会の支援(パートナーシップ)の重要性」JICAは技術協力(ボランティア事業等)や無償資金援助の分野で現在もアフリカをサポートしています。

JICAボランティア事業のひとつ「青年海外協力隊」ではアフリカ諸国へ約1万名が派遣され、現在も24カ国で約900名の隊員が活動を続けています。





TICADについて

マラウイ研修員
ソーザ・スパークスさん
(Mr.SOZA Sparks)

この会議は日本が主体となって開催するということで、日本とアフリカ諸国との関係を築くための架け橋になっていると思います。

また、日本だけではなく、欧米諸国にもアフリカに目

を向けてもらえる良い機会となっていると思います。アフリカの国々の間で先進的な技術や様々な文化を知り、情報や知識を共有していくことは現在のアフリカ諸国にとっては必要なことです。先進諸国のこのような歩み寄りによってアフリカ社会が抱えている様々な問題は将来的に解決されていくことでしょう。多くの人々にアフリカの現状を知ってもらうためにも様々な場所でこのような会議が開催されていくことを望んでいます。

今後は是非とも、この会議をアフリカで開催してもらいたいと思います。もちろん、開催地についてはマラウイを希望しています。

新シリーズ 福島県OB・OG体験記

青年海外協力隊員（JICAボランティア）として アフリカのザンビアに派遣されて



ふくしま青年海外協力隊の会
会長 齋藤 誠一

「アフリカに行ってみよう」という夢や憧れを小学生の頃から持っていました。人間を簡単に受け入れようとしない自然の厳しさや文明の発達していない人々の生活にとっても興味がありました。高校生になると、何不自由のない日本での生活に物足りなさ、この当たり前な日本での生活はとても幸福なものなのにそれに感謝できない暮らしを変えたいと思うようになっていました。進学して私は、ぼっかり空いた心の隙間を埋めてくれる「青年海外協力隊」に出会いました。「これだ」と思いました。憧れの「青年海外協力隊員」として派遣が決まった国は「アフリカのザンビア共和国」。どこにある国かもわ

からず、地図で探してようやくたどり着きました。1983年の4月、初めてアフリカの大地におりたって感じたことは、乾いた空気・真っ青な空、アフリカの匂いが日本と違っていたということでした。

私の赴任先は、首都のルサカから東に約600km、さらにそこから北東に100km以上離れたジュンベという村でした。電気がなく「ろうそくとランプ」の生活でした。料理は「薪と炭」を使いました。ずっと憧れてきた生活でしたが、実際やってみると「火が簡単におこせませんでした。」夕ご飯が出来る頃には、空には満天の星空が広がっていました。

仕事は、村々を回って米作りを指導することでした。村の人たちを説得して、「品種試験や栽培試験」を設置しました。自らやってみせることが、「彼らの信頼を得るもっとも近道だ」と考えていたからです。40℃以上の暑さの中で田んぼに種を播き、待ちに待った雨が降り、うまくいくはずでした。ところが、米の種を播いたのに全然芽が出てこない場所がありました。「なぜ？」犯人は「鳥と

ねずみ」でした。

教えにきたのだからと肩に力が入っていましたが、実際は学ぶことの方が何倍も多かった。慣行といわれる彼らのやり方にもなるほどと思うことが、沢山ありました。2年の約束でアフリカ行きを許してくれた両親でしたが、「やり残したことがある」と3年4ヶ月活動をし、帰国しました。村人の暮らしは、裕福ではありませんでした。車もバイクもありません。自転車を持っている人もほとんどいませんでした。子供たちは、村人みんなで育てていくものでした。娯楽といえば、ラジオ、サッカー、お酒（どぶろく）とおしゃべり位。それでも、子供たちは元気で明るく、大人たちも人生を楽しんでいました。「とても不思議」でした。

帰国するとき、地域に5人いた酋長が「齋藤のために」と送別会を村々をあげて開いてくれました。「頑張って良かった」と本当に思いました。人生80年の時代となりました。その中で「青年海外協力隊（JICAボランティア）に参加する人生」を自信を持ってお勧めします。その経験が大きな財産となって「私たちのその後の人生を輝いたものとしてくれるから」

ふくしま青年海外協力隊の会を紹介します

ふくしま青年海外協力隊の会は、青年海外協力隊員としての活動経験を地域社会の国際化推進や青年海外協力隊事業の啓発を推進するために福島県在住及び元在住の「青年海外協力隊」経験者を中心に1976年に発足し、2006年に設立30年の節目を迎えました。

初代隊員は、海外協力隊発足の昭和40年フィリピンに派遣された加藤さんに始まり、これまでに450名を超える隊員が世界に羽ばたいてきました。現在も40名余の隊員が海外で活動してい

ます。

県内には270名余の隊員経験者が居り、JICA二本松、JOCA二本松、県庁国際課、県国際交流協会等と連携し、国際理解及び開発教育の実践活動を行い、県内の小中高生等を対象とした国際交流プログラムである「地球体験キャラバン」は、実施から今年で17年目を迎えます。

これからもOB・OGの力を結集し、青年海外協力隊の素晴らしさを多くの皆様に伝えながら、協力隊ファンの発掘に頑張っ

愛してやまないOB・OGが沢山いる会」です。



せかいのくになら [第10回]



私のふるさと —チュニジア共和国

フランス語 語学講師 ショクリ 先生



▲Sfax

チュニジア。一般的には、チュニジア共和国と呼ばれているこの国は北アフリカにある地中海に面した国です。西はアルジェリア、南東はリビアと接して、全国には24の県があります。

そのなかのひとつ、私の故郷でもあるスファックスの県都スファックス (Sfax) は、首都チュニスから南東270kmにあります。スファックス県は人口89万人(2007年)、面積7,545km²の規模を持っています。

スファックスは西暦849年に都市と

しての基礎を築き、現在は35万人の人々が住んでいます。チュニジアの産業・商業の中心地でもあり「チュニジア第二の都市」と呼ばれています。

歴史を紐解くと、スファックスは10世紀末まで独立州都として機能していました。1148年にシシリアに征服、占領されたものの、1156年にはチュニジア勇士により自由を取り戻すことができました。しかし、16世紀に入ってからスペインによって支配され、1881年には、フランスのチュニジア

侵攻によりフランス人総統治による保護領となりました。

第二次世界大戦中には、Axis(日独伊三国軍事同盟)がスファックスを重要な拠点として位置づけ、その後の1956年3月20日、チュニジアはフランスからの独立を成し遂げることができました。

私の故郷、スファックスでは美味しいパスタやパイを食べることができます。特にオリーブとオリーブオイルは絶品です。

チュニジア共和国 Data	スファックスの教育機関数	スファックスの医療機関数
 首都: チュニス 公用語: アラビア語 面積: 163,610 平方キロメートル 人口: 1,010万2千人(2007年) 通貨: チュニジア・ディナール (TND) (1 TND=約 90円)	小学校: 367 中学校: 91 大学: 20 科学館: 2	大学病院: 2 地方病院: 5 医療センター: 142 診療所: 725 総合病院: 10 薬局: 165



チュニジア共和国

次回予告 英語 語学講師 ビル先生 ...アメリカ(ニューヨーク)の話をどうぞお楽しみに!!



World Quiz ワールドクイズ

Q 「チュニジア人がタクシーを停めるとき、次のうちどこを指差すでしょう？」
 ①天 ②自分の顔 ③地面

答えは●ページに

平成20年度「草地畜産開発」 課題別技術研修コース

参加者

- Mr.M'ITONGA Julius Ncunge (ケニア)
- Ms.MACHWENU Frandina Khavere (ケニア)
- Mr.SOZA Sparks (マラウイ)
- Mr.FAILELEI Ropeti (サモア)
- Mr.MOBAYDEEN Zaid Faisal Ibrahim (ヨルダン)
- Mr.DONG Zhi-Guo (中国)



痩せた土地の多い地域では作物の育ちが悪く十分な収量を得られないので、耕作農業に向いていません。そうした地域では家畜飼育が人々の食料を確保する手段として重要ですが、餌となる飼料作物の出来によって家畜の育ち(病気などに対する抵抗力のある家畜の成長や乳の出や肉付きの良否など)が左右されるため、如何に良質の牧草の生える放牧地を確保するかが課題です。JICA二本松では、福島県西郷村に本拠を置く(独法)家畜改良センターが長年積み重ねてきた畜産振興技術を活かして途上国の畜産用草地の開発対策に寄与できる人材を育てるための技術研修コースを実施しています。今年で通算14回目となりますが、現在6名の研修員が意欲的に研修に取り組んでいます。

福島市長のあいさつ

福島市の国際交流



福島市長
瀬戸 孝則氏

本市における国際交流の歴史で先ず語らなくてはならないことは、中国北京市との「農業技術交流」があります。昭和55年から始まったこの事業は、北京市海淀区にある中日友好農場から合計21次にわたり延べ256名もの農業技術研修生を本市及び市内の農家で受入れたと言うものでありますが、当時は、国家間の具体的な事業がまだスタートしていない状況であったので、本市の全国に先駆けた取り組みは中国でも非常に高く評価いただきました。以来、平成13年に所期の目的が達成されたことによりこの事業が終了してからも、農家の方々や日中友好団体等では継続的な交流が続いております。

また、平成7年からは「福島市中学生海外派遣」事業を実施しており、これまでには主にシンガポール・マレーシアに派遣して参りましたが、一昨年北京市海淀区と新たな青少年交流をスタートさせることで合意したことを受け、市制施行100周年の昨年始めて中国に派遣したところであります。今後は、青少年・

教員等の相互交流が益々盛んになる予定にあります。

更に、本市国際交流協会と県国際交流協会とも連携しながら、外国出身の日本語がまだ不自由な状態で来日している児童・生徒に授業等の理解を促進させるためのサポーター派遣事業や、留学生の生活支援事業などを通じ今後においても多文化共生・国際交流を進めて参りたいと考えております。

福島市長 瀬戸 孝則



▲中学生海外派遣(海淀区人民政府正面)

JICAデスク —徒然なるままに—

野口英世アフリカ賞受賞者記念講演会



記念すべき第1回目となる「野口英世アフリカ賞」の受賞者が発表されました。

今回の受賞者記念講演会では、お2人からアフリカで今何が起きているのか、現場での経験を元にお話いただきます。また対談のコーディネーターとして、アフリカでの国際協力活動経験も豊富な福留功男キャスターをお迎えします。

野口英世博士ゆかりの地で、アフリカの現状に耳を傾けてみませんか？



申し込みは、福島県生活環境部国際課 ☎024-521-7183
<http://www.pref.fukushima.jp/kokusai/index.html>

国際協力やNGOのご相談は... JICAと福島県の連携促進など、各種ご相談を「国際協力推進員」が承ります。ご連絡は下記までお願いします。

財福島県国際交流協会 JICA デスク 橋本千賀子 TEL: 024-524-1315 / FAX: 024-521-8308 / URL: <http://www.worldvillage.org/>

福島県出身の候補者

平成20年度第1次隊（二本松青年海外協力隊訓練所）

162名の候補者が
4月7日に入所
しました。

世界中の人々に、ほんとうの愛を送りたい・・・



JOCV 星野 直樹

(出身地：いわき市、
派遣予定国：タンザニア、
職種：自動車整備)

社会人になってスペインへ出張しました。それが初めての海外で、それをきっかけに海外に興味を持ち、「また海外へ…」とっていました。

そんな時、会社の組合を通して青年海外協力隊の募集を知りました。以前から聞いたことはありましたが、「どんなことをするのか？」と分からなかったのですが、調べていくうち



に「こういう道もあるんだ」と応募することを決心しました。

任国では職業訓練校で自動車整備について授業を行います。現在、自動車の開発・実験の仕事をしているので、自動車には直接触れる機会がありますが、整備とは少し異なるので不安はありますけれども、私に出来ることを現地の人と一緒にやっていきたいと思っています。

青年海外協力隊へ参加する人は「特別な人」ではありません。「誰でも、当たり前のように」参加してもらえたいことを願っています。



JOCV 佐藤 裕生

(出身地：田村市、
派遣予定国：ナミビア、
職種：PCインストラクター)

システムエンジニアとして3年間勤務後に、青年海外協力隊に応募しました。ナミビアの公立中学校で日本の小学校から中学校に相当する学生を対象にPCの基本操作方法、数学などを教える予定です。

応募した理由は、教師になりたいというのが一番の理由です。帰国後に青年海外協力隊として得た様々な経験を日本の子どもたちへ伝えながら、子どもたちの将来の手助けを少しでも出来ればと思っています。任国では、教えてあげるのではなく、ともに学びともに成長していきたいと考えています。

駒ヶ根訓練所 福島県出身候補者

(出身地/派遣予定国/職種)

- 羽曾部 寛
(耶麻郡磐梯町/ベナン/
村落開発普及員)
- 川 名 真由美
(郡山市/ホンジュラス/保健師)
- 二階堂 幸広
(福島市/セントルシア/音楽)
- 春原 拓也
(双葉郡大館町/ミクロネシア/
理数科教師)
- 石川 友美
(会津若松市/バヌアツ/
小学校教諭)



●今回は、アフリカで罹りやすい病気についてお話ししたいと思います。アフリカで日本人が一番罹りやすい病気は、腹部の感染症です。日本のような衛生状態を確保するのが困難な状況で、食物に含まれる細菌や寄生虫などが自然と体中に入りやすい環境にあります。よって、寄生虫に罹ったり食中毒のような細菌性の感染症により、腹痛や下痢などの症状が起こります。また、蚊に刺されることによって罹るマラリアや野口英世がその研究に生涯を注いだ黄熱病など、日本にはない生命に関わる怖い病気もあります。



5月～7月の イベント情報

- 5月14日(水) 平成20年度 春募集「体験談及び説明会」
(於:マイタウン白河) ←下に詳細あり
- 5月15日(木) 公開講座「ニッポンの知恵から学ぶ
～日本の開発経験～」
(於:JICA二本松)
- 5月16日(金) 公開講座「ジェンダー入門」
(於:JICA二本松)
- 5月17日(土) JICAオープンハウス ←右にポスター
平成20年度 春募集「一日体験」
平成20年度 春募集「体験談及び説明会」 ←下に詳細あり
(於:JICA二本松)
- 5月30日(金) 野口英世アフリカ賞受賞者記念講演会
- 5月31日(土) 福島国際貢献リーダー養成講座第1回講義
- 6月12日(木) 平成20年度 第1次隊修了式
- 7月27日(日) 地球体験キャラバンスペシャル2008

ようこそ! JICA二本松へ!! 春のオープンハウス

JICAでアフリカ一日体験

5月17日(土) AM11:00～

知っているアフリカのこと
いくつあるかな?



中庭軽食コーナーで綿菓子も無料!!!
ステキなプレゼントももらえるスタンブラリーを実施

映画同時上映
映画「アサンテ・サーナ」
上映時間
第一回 11:00～12:30
第二回 13:00～14:30



平成20年度 春募集 JICAボランティア募集説明会

あなたの情熱を海外で活かしてみませんか!!

福島	5月10日(土)	14:00～16:00	コラッセふくしま5階	JR福島駅西口から徒歩3分
白河	5月14日(水)	18:30～20:30	マイタウン白河2階	JR白河駅から徒歩5分
二本松	5月17日(土)	14:30～16:00	JICA二本松	JR二本松駅からバス25分(「NTC」下車)

- 実施内容**
- ① ボランティア活動ビデオ上映
 - ② JICA 事業概要説明
 - ③ ボランティア経験者による体験談
 - ④ ボランティア経験者による個別相談会
 - ⑤ ボランティア活動パネル展示

上記以外での開催地、日程でも、5名以上のお申し込みがあれば、特別募集説明会を実施しますので、下記までご連絡ください。

お問い合わせ
☎: 0243-24-3200 (代表) メール: jicanjv-bk@jica.go.jp
JICA 二本松 (担当: 岡田) まで

平成20年度教師海外研修 参加者募集中!



海外研修国: ガーナ共和国 (アフリカ)
海外研修日程: 平成20年8月2日(土)～8月14日(木)

※ただし諸事情により変更になる場合がありますので予めご了承ください。

募集締切: 平成20年5月15日(木)

JICA二本松へのアクセス

独立行政法人国際協力機構 〒964-8558
二本松青年海外協力隊訓練所 福島県二本松市永田字長坂4-2
TEL: 0243-24-3200
E-mail: jicanjv@jica.go.jp FAX: 0243-24-3214

※皆様からのご意見等をお待ちしております。

